

“人間と性”

一般社団法人“人間と性”教育研究協議会
〈性教協〉会報 No. 382 2023.4.25



発行：“人間と性”教育研究協議会/発行責任者：水野哲夫
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-7-16 初台/ハイツ1006号
<https://www.seikyokyo.org> Tel 03 (3379) 7556

視 点

遅れてハイブリッド開催に取り組んで ～近畿サークル連絡協議会の試行錯誤から見てきたもの～

2023年3月11日に尼崎で開催された第31回近畿セミナーは近畿サークル連絡協議会（以下近協と略）にとっては昨年に続くハイブリッド開催でした。

メンバーに高齢者が多く、オンラインセミナー開催をためらっていた近協に幹事の方々から強い督促があったのが2021年の夏頃でした。コロナ禍がいつまで続くか見通しが立たない時期でしたので、近協も覚悟を決めて重い腰を上げ、11月に大東学園出身の幹事さんたちの全面的な援助を受けて、無料学習会を開催したのが初オンラインセミナーとなりました。この時、近協メンバーは参加者募集と感想文づくり程度しか担当できていません。

まだ自主開催への道筋が見えないまま、2022年3月の和歌山での近畿セミナーは対面開催のみで準備を始めました。案内文書を検討中に、完全無職状態であった私が「ハイブリッド開催に…」と提案しました。Peatixでのチケット購入でミスしてキャンセル要請をした68歳の私が「清水の舞台から飛び込んだ」のです（無謀！）。Zoomも参加者としての操作さえ初心者なのに。

主催者としてのPeatixの募集画面づくりは幹事の星野恵さんに手取り足取り教えていただき、Zoomの年間契約をして、まずは近協会議をハイブリッド開催して練習開始です。一つひとつの試みがハラハラドキドキで…今思うに、その緊張感を楽しんでいたのかもしれませんが。間違いなく私の脳の活性化にはなりましたが。

そして迎えた和歌山での近畿セミナー。Zoom配信でのハウリング対策が不安な上に、短い準備時間であたふたして、講演はじめに「画面共有」の操作で躓き、講師用パソコンからの画像配信が止まり…。

なんとかセミナーは終えましたが、参加者の皆さんには申し訳ない思いが残りました。この失敗がバネになったのでしょうか、夏の広島での全国セミナーにはハイブリッド開催の方法、特に機材と「オンラインプロジェクト」メンバーの動きを見るために現地入りしました。その後

もオンライン講座に参加するたびに、どんな機材を使えば質を上げられるのか学びを続けました。昨年11月に「学ぶより、慣れろ」とプレ近畿セミナーもハイブリッド開催しました。そして、新たにマイクスピーカー（ANKER製 PowerConf S3）とUSB延長コードも購入して近畿セミナーに備えました。これらは1万円程度の安価な機材で、ビデオカメラも3千円程度のウェブカメラで代用しました。

コロナ禍でのセミナーのハイブリッド開催で見えてきたことは、対面だけの開催より参加者が確実に増えること（特に遠方から）。特に、ユース世代の会員増にもつながったこと（兵庫では今年度だけでも2人増）。Peatix利用も手数料をとられますが、参加者のデータ管理と会費徴収が大変楽になります。

問題はPeatixやZoomの利用などに慣れた人材が地域やサークルだけでは足りず、よりよい映像や音声の配信に不安が拭えないことです。参加する方もPeatixのチケット購入でミスする人が1割以上いて、受付担当者はその発見と対応にかなりの時間を割くことになります。

確かにハイブリッド開催は高齢化した会員が多い地方ではかなりの負担増になります。新たな性教育情報を追うだけでも精一杯で、ネットや配信機材の操作の習得までは難しいでしょう。やはり、若い世代へのバトンタッチを急がねばならないのでしょうか？会員の中には対面開催に戻りたいという意見もあります。生で視聴する講演や発表は、こころの高ぶりが違いますから。地方でのオンラインセミナー開催、コロナ禍明けに再考してみませんか。

~~~~~



山崎比呂志

（兵庫県“人間と性”教育研究協議会代表）